

守谷市議選予定候補者として

こ すげ かつ ひこ
小菅 勝彦 さん

立憲民主党公認を決定しました！

それぞれの“生きる”により添う守谷市政へ。

小菅さんの主張と政策を紹介します。

障がいを持っている
兄の生き方が
いつも心の中にある。

私は、38歳のときに自分が糖尿病であることを知りました。父も重い糖尿病患者でした。私の場合は、父ほど重篤でなく、仕事も外回りから内勤に変えてもらうことで以前と変わらず働き続けることができました。

その私の兄は、聴覚に障がいを持って生まれてきました。兄はとにかく明るく前向きな人です。時間がかかっても必要なことは人に伝えようと「努力」する人です。

だから、兄は普通に“生きる”ことに人の何倍も「努力」をします。

小さいころ、友達と一緒に公園で遊んでいたとき、なかなか遊びのルール分らない兄に、まわりの子

たちが戸惑っている光景を見たことがあります。そんな中、一緒に遊びたいと一人明るく笑う兄の姿を見て、現実の「不公平さ」に胸が痛くなりました。

人はそれぞれ生まれながらにして持っているものが違います。お金に恵まれている人、丈夫な体の人、容姿に優れている人、様々です。

私は糖尿病を抱え、兄は聴覚障がいを抱えて生きています。

そのために、人それぞれに、生きていくにあたって必要となる「努力」の量が違ってきます。

そして、そんな「不公平な現実」を私は少しでも変えていかなくてはならないと思っています。

生来、必要とされる努力の量、その凸凹を多少なりとも平らにするために欠かせないものがあります。

それは、公共サービスです。しかし、残念ですが、まだまだその在り方は十分ではありません。

だから、

「それぞれの“生きる”により添う守谷市政の実現。」に向けて、私は、兄に負けない明るく前向きな気持ちで、引き続き全力投球していきます。

小菅勝彦

文化・芸術の振興と ボトムアップで 心豊かな守谷市へ。

地域に生きる普通の ひとたちのリアリティが大事。

私は、守谷中学校吹奏楽部の創立メンバーのひとりです。“音楽家になりたい”という夢を抱き音楽専門学校に進み、その後会社員として32年間働いている間もサクスを続けてきました。

いま、守谷中の吹奏楽部はとてもレベルが高い活動をしていますし、市民による文化・芸術活動も様々行われています。こうした市民活動を支援するため、公民館や公共施設などを活用し、練習や演奏したいと思う人がいつでも利用できる場を増やしていくことが大切です。

また、プロだけでなく市民も自由に演奏したり一緒に聴いたりできる場をつくることは、人と人が交流するきっかけとなります。TXの沿線開発で守谷市に移り住む人々が増える中、趣味や余暇を通じた、顔の見える、心豊かなコミュニティをつくりたいと思います。

大事なことは、守谷市に暮らす人々の思いをくみ上げることです。私自身、サラリーマン生活を

送る中でなかなか地域への思いを話せる機会はありませんでした。私はこの4年間、そうした市民の声をたくさん集め、議会で投げかけてきました。

地域に生きる人たちのリアリティをしっかりとすくい取りながら、政策にしていくというボトムアップの基本姿勢を、引き続き守谷市で根づかせていきたいと思っています。

【小菅勝彦プロフィール】1964年生まれの現在59歳。守谷市出身で、高野小学校、守谷中学校、取手一高、市川音楽専門学校を卒業。地元の事務機器販売会社に就職し、約32年間サラリーマン生活。趣味はサクスを吹くことと、鹿島アントラーズを応援すること。その応援でスタジオアムで出会ったパートナーと、母、妹の4人で高野に在住。

小菅勝彦事務所／守谷市高野5067-2 電話：070-3848-4638

<https://kkosuge.com/>



HP



LINE

立憲民主党

物価高を
克服するための

緊急経済対策

- ① 家計への直接支援 — 暮らしを支え、経済再生
- ② 事業者への直接支援 — 雇用・生業を守り抜く
- ③ 省エネ・再エネへの大胆投資 — 「ピンチ危機」を「チャンス好機」に構造転換

詳しくはこちら →

